

コロナウイルス以来、政治家を中心にカタカナ語が飛びかかっている。よくわからぬ日本語も、住民にきちんと伝わることは、を!!

けやき通信 2020.7月 No.325

— 錦織佳代子 —

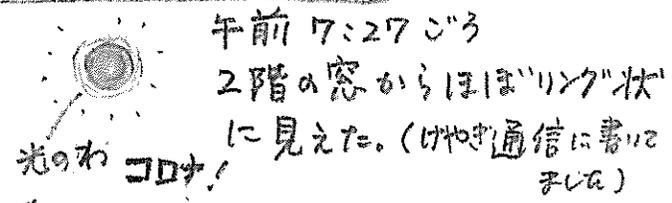
6月21日 日食 夕方5時すぎ 雲が晴れて太陽が!!



ご近所に声をかけ、みんなで黒くかけた太陽を見ました。

8年前 次は10年後

2012年5月21日 金環食



6月21日 夏至 仙台の陽木郎の誕生日



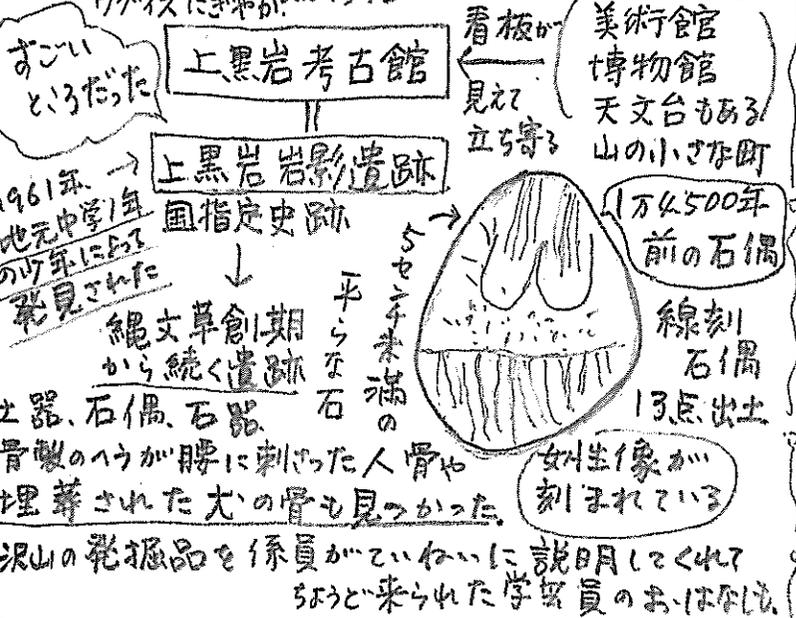
夏至祭 フィンランド 北欧の人たちが待ちこがれる夏至祭。10年くらい前からこのときフィンランドに。学校も仕事も店もみんな休み。大きな駅に駅員はひとりもいなくて、列車の到着案内もない。切符は列車の中で買った。湖のそばのサマーハウスで光かがやく夏のはじまりを存分に楽しむ。

鶏むね肉のロースト かんたん・おいしい、フタをして余熱利用で10分待つと中まで火が通る

(4人) トリむね肉2枚(400g) 塩 小さじ1 コショウ少々 小麦粉適量 オリーブオイル 大さじ1

- ① むね肉は余分な脂を切り落とし、塩、コショウ、小麦粉を全体にうすくつける。(肉は常温にしておく)
- ② フライパンにオリーブオイルを入れ中火にかけ、肉の皮目から焼く。フタをして表面4分、裏面3分焼いたら火を止め、そのまま余熱で5分おく

6/23 瓶ヶ森登山 石鎚 土小屋 → 久万高原町



「夫が山で採ってきたので」と長野の粗曲竹の子 やす子さんから採りたての竹の子が届いた。細い筆のよう。皮をむいて、下ゆで不要。サハシ、みそ汁、煮物にも。シャキッとした歯ごたえ。満足!!

○ 新型コロナウイルス特別定額給付金を受け取り、ユニセフ(国際連合児童基金)の募金に10ばかりの協力をしました。コロナ予防をするなか、手洗いのみならず飲料用の安全な水で自宅にない人が世界には22億人も。

読書ノート

● 犬の日本史 人間とともに歩んだ1万年の物語

谷口研語著 吉川弘文館

浮世絵にも絵巻にもぶすま絵にも暮らしの中に犬がいる。毎朝、散歩のときも、なじみの犬たちと話す。犬は、いったいいつから人とともに存在しているのだろうか。

これは、学術書?と思うような難しい本。日本書紀、古昔物語、日本霊異記など数多くの物語、日記、公書などを引用し、1万年も前から人間とともに歩んだ犬の歴史を綴る。「犬は人類のむね古の友」、「むね早く家畜化した動物」、「日本では約9500年前の貝塚で犬の骨が見つかり、愛媛県上黒岩洞窟(約8500年前)では、埋葬された犬の骨も発見」。読むほどに面白くなる。あの「生類小憐みの令」は、犬にとっても人間にとっても異常な、残酷なものであったと思う。「今こそ読み直す不朽の名著」と帯にあるが、こんな本があるのですかね。犬よ、犬よ...

● はなしの名人 東京落語地誌 池内紀著、角川選書 (表紙絵、落語池内紀、写真池内郁)

今は亡き著者の博識、英知、ユーモア、豊かなことば、伝える力... 感服しながら興味深く読んだ。たまにテレビで「落語」を見たのしむことはあっても、その世界は未知の森。著者は大好きな落語をいつでも聴きたい一心から、若いころからカセットテープに録音したのが600本ほどもあるそう。磨かれた話芸を聞かす体にはこんで自らのことばの力になっているのだろうか。品川、王子、新宿... 「はなしの舞台-土地」をこまめに歩いて江戸から東京へと行ったり来たり。語りかけられる。各章の咄家のカットも著者、思わず笑う。うまいなあ、写真もいい。

七月初めから九州をはじめ日本のあちこちで記録的豪雨が続き、被害甚大、とくに九州、新設コロナウイルスの感染、水は恐ろしい、一体どうやって立ち直るのか、豪雨も地球温暖化によるもの、私たちが人類に...

緑のゴージャスなカーテン、光の影がゆらゆら、なん?ゼイタク?なカーテンと、さやのピタミントは、キャリーの10倍。